

玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（案）地域説明会
会議録（概要）

■日 時 令和7年2月4日（火）19:00～21:00

■場 所 すこやかセンター

■出席者 柴田市長、多田教育長、小崎次長、琵琶教育総務課長、的場学校教育課長、清山教育総務課参事

■参加者 44 名

1 開会

市長あいさつ

2 説明

「玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（案）」の内容のうち、素案からの修正点を資料に沿って説明。

3 意見交換

参加者 1：娘と息子が大崎小学校に通っていきまして、下が 2 年生、上が 4 年生です。先ほどの説明の最後に、地域の住民と話し合って話を進めていくとありました。ですが、途中の方では、著しく児童数が減った場合、教員の数が足りないとかそういうふうな場合は学校を統廃合していくような感じに捉えられました。そこは、教員が少なから、児童数が少なから統合しますとかいう言い方ではない、協議は必ず地域の声を聞きながら、その地域の方、もしくは学校に通っている保護者の意見を重視して進めていくと思っていいのでしょうか。

事務局：ご質問ありがとうございます。計画としては先ほど例に挙げていただいたような、著しく児童数が減り、教員の配置が足りないような、そういう状態が生じた場合には 1 年前倒すとさせていただいておりますが、前倒しをする場合も当然ながら地域や保護者と協議は行ってまいります。

参加者 1：では、その人たちの声を無視して計画を進めていくことはないと思ってよろしいのでしょうか。

事務局：無視して進めるということはありません。ただ協議ということですので、こちらの学校運営の厳しさというところもご理解いただきたいというところはございます。

参加者 1：ですが、小学校をいろいろなところで統廃合していくというところはあったと思います。そこでも児童本人が望めば、たった一人であったとしても地域の住民が望めば、いろいろな力を合わせてその子が卒業するまでは残すということもありました。だから、その辺は児童の声が一番だと思いますので、何らかの考えを地域の方と力を合わせて、子どもが、通っている児童が願っている方向で考えて欲しいと私は思っています。この前、教育委員会の方々が小学校の児童にあてて、未来の学校プロジェクトというものを配ってらっしゃいました。これを見る限りでは、とても誘導的な、あまり知識が無い方に対して、こういうふうにして行くことが最善だよという方にもとらえる書面を出されております。その時たった一人の児童になったとして、その子に誘導的な物を出して、学校は統廃合した方がいいからというふうな言い方を絶対しないでください。

参加者 2：通学距離が 3 km から 2 km にしていただけたというのはすごくいいことだと思うんですけど、総務文教委員会を傍聴させてもらったときに、バスの台数が 3 km から 2 km になった場合、運行するバスの台数が何台になるのかという質問があって、3 km だったら 16 台だったのが、2 km だったら 30 台になってしまう。そのバスも、購入する場合だと、30 人乗りのバスが 1 台 1,000 万で、それを運営するのにさらに 1 台 1,000 万、要するにバスを 30 台購入するのに 3 億円、それを運営するのに毎年 3 億円かかってくるというご回答だったと思うんです

けど、市の財政状況とかあると思うんですけど、そこまでバス通学を増やしてまで全て統廃合をした方がゆくゆく老朽化した学校の管理費とか運営費、修繕費などを下回るというか、3 億を毎年毎年使っていても金銭的なメリットというのがあるのでしょうか、教えてください。

事務局：あくまでも試算上の話になりますが、施設の維持修繕というのがかなり経費はかかります。具体的な数字を言いますと、また数字の方が一人歩きをするのでここでは差し控えさせていただきますが、バスの運行管理の年間経費を加えても、再編しなかった場合より実際にした方が経費の方は少なくはなります。

参加者 3：そんなのではわからん。

事務局：過去の試算になるので現在の経費はもっと上がっていると思うのですが、施設修繕費というのが 40 年間の平均でいきますとだいたい年間 4.6 億円かかっています。学校運営費の方が年間 1.1 億円くらいかかります。バスの経費、運行経費などが年間で 3 億 1,000 万くらいかかります。その合計の金額が年間約 8.8 億とかになるんですけど、これは再編した場合です。再編しなかった場合は施設修繕費が年間 9.3 億円、学校運営費が年間 2.5 億円かかります。これが 11.8 億円かかりますので、それを比較しますと、再編した場合では少し経費は削減されるということにはなりますが、この数字は過去に試算したものですので、今現在の数字に当てはめると、もう少し変わってくるかと思います。

参加者 2：詳しい説明ありがとうございます。僕が気になっているのは、もしこれでスタートしたときに、再編準備委員会で、やっぱりもっとバスを増やしたいとなった時に、バスの台数が増えてきた場合、バスの運転手が不足していると聞いているので、運転手の確保がきちっと出来るのかとか、実際やってみたけど、バスの運営費が実際より多くかかってきたとなった時に、2 km って言うたけど 3 km にしますとか、極端なことを言うと、国の基準通り 4 km にしますとか、後出しじゃんけんのように出されないのかということが心配なんですけど、2 km ということを出されてるということは、絶対変わりは無いという認識でよろしいでしょうか。

事務局：3 km から 2 km にしたところでバスの台数も増えます。もちろん、今、バスの運転手が不足しているという問題もわかっています。これはあくまでも 30 台というのは試算上の話で、900 人の方に、今鉾立とかで走らせているバスを使うとしたら 30 人乗りなので、だいたい 30 台くらいかかるでしょうと、ということなんです。スクールバスだけ走らせるのではなくて、今あるシーバスであるとか、路線バスであるとか、永井地区でやっているようなシートクを利用するとか、そういったところも再編準備委員会の中で保護者の方とも話をしながら、一番いい方法を考えていこうと思っています。教育委員会としては 2 km というところでしていきたいと考えております。その上でどういった形で子どもたちの通学の足を確保するか、安全対策をしていくかというのはしっかりと皆様と一緒に話をしていきたいというふうに考えています。

参加者 2：ありがとうございます。僕の質問は、2 km から 3 km になりますということはないのかということなんです。それはもうないと考えてよろしいですか。

事務局：我々としては 2 km ということで考えております。

参加者 2：わからないということですね、もしかしたらそれが 2 km で進めてるけど、ってならないかが気になってるんですけど。

事務局：我々としてはそのようには考えていません。現段階では 2 km でいきたいと思っています。

参加者 2：では 2 km で変わらないと認識させていただきます。

参加者 4：最初の質問は、3 km から 2 km に変わったので、それはいいかと思いますが、2 km と距離を教育委員会とかそちらのほうの方で、どなたが歩いてみたのか、そして歩いてみてどうだったのか。親やおばあちゃんに聞いてみると、大変だったという声は聞くんですが、本当に子どものことを考えたときに、実際歩いたらどうだったかというのを、

教育長さんや教育委員会の方が実際歩いてみたりして、これなら大丈夫というふうに出したのかと、これが一つの質問。次は、学校再編の進め方というところに、スタートラインと位置づけと書いてます。これを聞いたら私なんかは、まだ決めてないんだと。スタートラインと位置づけてここからいろいろ協議したり、変えるところは変えると、ということのかなと思っていたんですが、これを見てみると、この再編の進め方のところでは、計画の大筋は決まっていて、それをどのようにやっていくか、ということと協議していくと、そのスタートラインだと、そうすると、なんだかこの再編をもう計画は決まった上でどのように計画を進めていくかというのをこれから協議して行くんだと読めるんです。そうすると私たちが思っていた協議するというのは、今まで何回かの説明会でもいろいろな問題を指摘しました。修正出てきたのは、3 kmから 2 kmとか、いくつかあったんですけども、一番重要なところの、この計画は、本当に玉野の教育のためになるのかということで、たくさんの指摘があったんですね。検討委員会で答申が出たときに、3 kmや 2 kmの問題だけではありません。小規模校はいけないのかとか、人数が増えたらいいというのを決まったように言うんですが、答申でも小規模校の意義が出ていました。それをまったく無視して、捨て去って今の計画を作っていると思うんですね。それで親も、子どものことを考えたら、小規模校にわざわざ来てる親もいるでしょ。大規模校では自分たちの子どもはやっていけないと。小規模校に行くと、子どもが安心できるような教育を受けたいという親もいるんです。そうすると一律に多ければいいんだということではなくて、小規模校がふさわしいという地域はちゃんと小規模校として教育を残していいようにしようというような指摘をしてきたわけですよ、今までね。地域から子どもを離してはいけないんじゃないかと、地域に密着して子どもたちは育っていくんじゃないかというふうなことだって今まで説明会で指摘していた、計画そのもののことについて教育委員会も言葉では、みなさんの合意を求めていきますと、勝手にすることはありませんと。だから協議は統合するという中身についてどのようにするのかについていろいろ協議を進めていくのかなと思っていたのですが、ここに出ていることは、もう筋は変えないで、スタートラインでこれから協議します。この計画をどのように地域で進めていくかを協議する会で、そのところをちゃんとはっきりさせていただきたい。

事務局：2 kmを歩いたのかということですが、3 kmの部分は一部分ですが当然歩かせていただいております。坂のところは考慮しないとならないとか、交通の部分で危ないところがあるので配慮しないといけないところについての確認の方はさせていただいております。ただ、全ての地区の全ての通路を歩いたわけではありません。計画はスタートラインとしての位置づけというところですが、この計画については先ほどもご説明させていただきましたが、教育委員会の方針であります。保護者や地域の方と具体的な協議を進めるためのスタートをするための計画です。これがいわゆるスタートラインと考えております。なにかベースになる物が必要ですので、それがこの計画になります。計画策定後には具体的な内容をもって、各地域に赴いて学校再編の必要性についてご説明して、保護者や地域の方と話し合いながら進めることにしています。先ほどの、人数についてもそうですが、教育委員会としてはこう思っているが、地域の方は少人数がいいと、その部分が学校再編の必要性の部分にあたるんじゃないかと思っています。ここについては個々詳しく来年度以降説明の方をさせていただきながら理解を図りたいと考えております。

参加者 4：ということはうちの地域は、こういう再編しないほうがいい、今の学校へ行く方がいいというような論議もするということですか。

事務局：そうですね、その地域の人の考え方がどうしてそういうふうになるのかということも詳しくお伺いすることもできますし、逆に、教育委員会がどうしてそういう再編が必要なのかということの具体的な説明もしていきながら、歩み寄りが出来たらいいと考えております。

参加者 5：私はこの会があるのは、ある方法である人から聞いてたんですけど、そういう人がたくさんいると思うんです。

教育委員会が主でやってるんですかね。この地区の人にわかるためになにかやってるんですか。何もやってないんですか。たとえばビラをまくとか、立て看板をすとかね、そういうふうにしとかんと困るんですよ。簡単に説明してくれませんか。

事務局：広報たまのに掲載させていただいたりとか、なかなか全員が見られるかわからないですけど、ホームページにも掲載させていただいています。

参加者5：こういう大切なことを、あれに載ってるからいいんだとか、そういうのは無責任だと思うんです。だから本当に子ども、私らには孫になるんですけど、孫にこういうことがあるんだといったら笑いますからね、もう少しはっきり、みなさんにわかるように徹底してください。それからこの会は玉野市で何回やる予定なんですか。10回くらいやるんですか。

事務局：この計画案の説明については、今日と明日の2回になります。それから先ほどの広報のことにつきましては、計画ができあがりましたら、また皆さんの方に周知できるように計画して広報はしてまいりたいと思います。

参加者5：私が言いたいのは、初めてなんです。今までこういうことがありまして、問題はこうです、それが何も資料がないんです。あるのはこれだけなんです。私、環境衛生、協働推進の委員もやってますので、その課の方は何かあれば必ず連絡があります。ものによっては結果の報告もあります。教育委員会さんは、ラインを引っ張ってその中に入ってるんだからというのはちよつといかがなものかと思うんですけど。

事務局：計画策定が出来ましたら改めて地区の方にもご説明させていただきます。

参加者5：それから、玉野市で25の各コミュニティがあります。だからせめてその25のコミュニティの会長には内容がわかるように連絡してくれませんか。私も昨日話がなかったらここには来ませんよ。だからそれだけお粗末なんですよ。だからそういうことを徹底してやってください。それであと何回やる予定ですか。

事務局：計画案の説明は今日と明日の2回です。計画策定後には地域の方にまた改めて協議の場、説明の場の方はもうけさせていただきます。どういった形で地域を回っていくとか、説明に行くかというのは考えますので、現段階でいつ行くというのは決まっておりません。

参加者6：スタートラインと書いてますけど、資料がなくて困ってるんです。だから極端な話ここに今までの資料を置いて、そんなにすごい集まるんじゃないんだから、せいぜい30人か40人だからね、そうすれば効率的になると思います。

事務局：公民館には置かせていただいております。また公民館に置いていることについてコミュニティ協議会のほうを通じてお知らせさせていただきたいと思います。

参加者5：ここに来た時に市長さんと一緒になって、市長さんは私の顔を覚えてますから、話をしたんですけど、子供たち、小学生中学生の負担にならないように、今のように交通費はどうなるかわかりませんからそういうことを考えてやってもらいたいと思います。

参加者6：地域の代表の人の中には、パソコンはないし、広報たまのを見てない人もいるから、代表の人には声をかけてくださいよということだと私は思います。

参加者7：教育のことについてはどうしたらいいのかなという考えを案が出ているときに考えました。それでこれは玉野市だけの問題じゃないかと、全国的に起こる問題であると。今少子化ですから、そうしたときにネットで調べてみたんです。そうすると、文部科学省がこの場合、小中一貫校を進めたらどうかという手引きまで作っています。このことについては考えられた方はいますでしょうか。小中一貫校というのは今現在ではないですけど、22年、小学校で745校、中学校で430校が採用されてます。その数は右肩上がりで増加していき、全国的な普及は時間の問題でしょうという文部科学省の見解です。つまり小学校6年間と中学校3年間を一緒に考え、9年間をどう維持するか。もっと効率的によりよい教育ができるのではないかと、ちょうど玉野市がこういう

時期に来ているのではないかと思います。具体的に言うと、岡山県の中で平成30年に備前市で三石学園、平成31年に新庄村で新庄小中学校、令和4年に岡山市で山南学園、令和6年に美咲町で柵原学園、総社市で昭和五つ星学園、令和7年4月、この4月ですね、浅口市で寄島学園、それから令和8年にこれは来年の話ですけど、倉敷で下津井学園、これが開校予定です。これを例えば、今私が住んでいる玉中・玉小・玉原小にあてて考えてみたときに、玉にはこども園というのがありますよね。小学校を1年2年3年4年、ようするに玉小と玉原小を合併するわけですね。それで玉小なら玉小へ生徒を集める。玉小はこの前きれいにしたばかりですよ、お金をかけて、きれいになって、耐震化したのかなと感心していました。それから玉中学校については5年6年と中学校の1年2年3年。これを配置する。その中で小学校は先生は学年単位ですけど、5年6年は一部教科担任、英語とかそんな問題ですよ。もう小学校高学年なら英語、コンピューター習ってると思います。それから教科担任があと中学生、そのようにして学校配置をして、それで玉原小については、この小学校余りますので、ここは地区のみなさんとの交流の場、例えば野菜作りしてもいいんじゃないでしょうか。それからもう一つ、川崎市は条例を作って、子供夢パークというのを作ってます。これは川崎市が作っています。こういうことをしたら自由な遊び場ができると思っています。体育館はみなさんが、その地域の人だけじゃなくて、みなさんが交流するスポーツ、小学生から年寄りまで、交流できるスポーツの場、教室のほうは寺子屋式に、学年でもうちょっと勉強したいとか、遅れた子、進んだ子、そういう子に教えを広めれるんじゃないでしょうか。要するに、未来の玉野市の教育を、もう少し幅を広げて、その各地域に良さがあると思うんです。その良さを広げて今の施設を十分利用しながら、これ税金で作っていくわけですから、教育委員会さんだけが考えるものじゃないと思うんですよ。税金で作ったものをみんなが使えばいいわけですから、そうすることによって例えばスポーツだったらオリンピック選手を作ろうじゃありませんか。学業ではノーベル賞の学者が出てもいいかと思うんです。そういうような高い目標を立てて、子供の教育をすべきじゃないでしょうか。ただ人数が、中学校は3クラスじゃないといけないとか、小学校はクラス替えができる程度じゃないといけないとか、そういうものでしばられただけの教育ではなくて、もうすこし幅を広く見た教育を考えたほうがいいんじゃないでしょうか。一つだけ考えても、私は子供の時にすぐ近くに小学校があったんですけど、おばさんの家に泊まったもので遅れたんですよ。それが辛くて、泣きながら行きました。バス通学ということになると、すごい規制がかかりますよね。親も子も負担がかかります。そういうことで終わります。

参加者5：私も提案しますけど、玉野市のこの重要なことは、25の区域に分けて、そこから最低二人出てくれと、そう連絡すれば50人は集まります。そうすれば各コミュニティの会長、町内会長が来るとかなりレベルが高いと思うんです。そうすれば意見がありますからね、教育委員会のやりかたでやるよりも、もう少し開けた考えでやってもらいたいと思います。

参加者3：それぞれの言葉でとりあげているイメージがずれてると思うんです。それを確認しようと思って発言しますが、やっぱり検討委員会というときに統合によって通学距離が延びた場合、スクールバスで対応するというふうに聞いてたんです。当然遠くなった部分をそこに充ててもらえると思ったら、出てきたら3キロ、地域でちょっと反対が出たら今は2キロです。でも僕の気持としたら、統合しなければ歩いて十分いけるわけです。それを囲い込み運動みたいな感じで、小学校・中学校を一か所に囲い込まれて、そこから離れた人間は自転車で行くか、バスで行くか、というふうに囲い込まれて結局教育難民を作られてるんですよ。スクールバスで行く学校に雨が降っていて2キロ以内の人間は歩く、そんなの耐えられませんよね。だからスクールバスを出してくれるというんだったら、時と場合によったら全員をスクールバスで運ぶ覚悟で計画を立てるべきだと思ってますけども、そのへんどういうふうに反論されるのかなと思っています。

それから二つ目、バス 30 台、ウェブで質問を出していますけど、このバス 30 台、市教委が、玉野市が購入するんですよね。購入してどこか委託するんですか。バスの車庫はどこになるんですか。各学校バスが何台入るのかわかりませんが、下校の場合、バスを駐車するスペースが各学校どれくらいあるんですか。そのへんのイメージをどのように考えているのかと思っています。当然これは始発の場合も、玉野市内のどこかにバスを停めておいて、そこから拾っていく形になるかと思いますが、ちょうど通勤通学のピークの時にバスが 30 台玉野市のどこかに停まって交通妨害をするんだと思うんです。合わせて 1 日の走行距離が、車庫からでて往復して帰りも迎えに行ったら、だいたいバスは 1 日に何kmくらい走るんでしょう。排気ガスが大問題になっていて地球が減びるといときに、新たに余分にバスを 30 台走らせる計画を玉野市は発表しているわけですが、その辺の整合性をどのように考えているのかを聞きたいと思っています。最後ですが、教育の質について具体的に教えて欲しいと言っても、なかなか返ってきませんでした。漏れてきた話によると、協働的な学び、10 人では出来なくて 30 人でないと出来ない協働的な学びとは具体的に何ですかと聞いたときに、漏れ聞いた話によると、教育長さんは、「ドッチボールかな」と言われたらしいですね。具体的にイメージすれば、10 人でドッチボールをすれば敵味方交代 5、内野が 3、外野が 2、それが 10 人のドッチボールのイメージかなと。これでも十分出来ると思いますが、これが 30 人じゃないとだめな理由がピンと来ないですよね。それに引き替え、デメリットというか通学に伴う大変な危険、たとえば、僕初めて知ったんですけど、玉原の玉中学生は、距離は遠くても危険だから自転車通学は許可してもらえない状況で、過ごしてきてるんですよね。僕は教員でした。毎年 4 月に用水へ中 1 の生徒は落ちます。毎年落ちます。用水へ落ちて命には別状ないのですが、この峠や坂がいっぱいある玉野市中 1 の小さい子が自転車で通って命を落とさない保証はないと思うんです。そんな危険を冒して統合するメリットが、さっきのドッチボールが 30 人じゃないとできないというような答弁で本当にいいのでしょうか。もちろん教育長も不本意な答弁だったというのは聞いてますけども。10 人で出来なければ 2 学年 3 学年集めれば 30 人にすぐなりますから。先ほど小中の統合とか言われてましたけども、統合しなくても、たとえば運動会がさみしいというのであれば、合同で運動会をやれば、違った運動会をあり合わせることが出来ると思うんです。そっちの方も含めて柔軟に対応してほしいし、本当に 3 億円を毎年毎年払っていくのかなとそんなイメージを持っております。

事務局：最初のご質問の全員をバスに乗せたらということですが、確かにそういうことが出来れば理想的だなと思いますが、どこかで線を引かないといけないのでその線を引かせていただいたのが 2 km というところ。あと、30 台購入をするかどうかということですが、全部購入するかどうかについてはわかりません。また再編についても段階的に行って行きますので、一度に 30 台購入するというわけでもありません。先ほどおっしゃっていた課題ということも確かに課題だと思っていますので、そういったところをどういうふうに解決していくかということを検討する時間として 1 年ずらさせていただいているところもあります。

参加者 3：その程度の認識で文教委員会では答えたんですか。30 台、3 億円かかると言われたじゃないですか。

事務局：それは試算として、計算としてはそのようになりますということを答えさせていただきましたので、試算としては確かに 30 台必要になります。最終的な再編が完了した時点ではそのぐらい必要になるということは試算上としてはお答えさせていただいております。ただ、順次段階的に行ってまいりますので、一度に 30 台必要ということではありませんし、先ほど言っていた課題なんかも検討していきながら準備委員会の中で進めていくということにはなります。

参加者 3：じゃあ先ほど校舎の改修に 9.3 億とか 2.5 億とか言うのも、今言った程度で聞いとけばいいですか。

事務局：先ほども申し上げましたが、そういうふうに数字をお伝えすると一人歩きしてしまいがちなので、あまりお答え

したくなかったのですが、過去の試算として参考までに聞いていただければと思います。

事務局：教育の質についての質問がありましたのでお答えいたします。今回適正規模化ということで計画を進めている、その一つの目的として、今の子どもたち、これから子どもたちが令和の時代を生き抜くための力を身につけるためにということで、今学校教育に求められている教育を進めていくためです。具体的にこれから子どもたちにどういった力が必要なのかというところで、これからの令和の時代は社会が非常に大きく変わっている、

参加者3：すみません、前回も全く同じことを答えてくれていて時間の無駄です。具体的になっていません。教育委員会の議事録によると、同じ写生をして2～3人の子の絵を比べることと、10人の子が描いた絵を10種類並べる。そういう授業は違うでしょうということを書いてましたけど、10人のことは書いてあるけど、30人のことは書いてません。そういう具体的なことが知りたくて質問をしています。

事務局：わかりました。学校教育の中で教育活動、学習内容は様々です。10人で十分な充実した活動が出来る、先ほど例にありました、絵を描きました。10種類10人で比べて感想を言ったり見比べたり、それはそれで充実した教育活動ができます。さらにこれが10人から20人増えることでますますいろいろな視点で、

参加者3：それがわからないと言っているんです。ますますとかいろいろな視点でとか、具体的に質が変わったとか、10人より20人のほうがどんな質がかわるんだというその根拠を日本全国35人学級で勉強している学校があるわけだから、そこから取り出してきてそれでいまここへ出してくれないと、いくら説明でどうのこうのいったって説明にはなってないと思う。

事務局：もう一つ付け加えますと、10人で十分な活動内容のものもあれば、たとえば6人グループが5～6グループあることで様々な教育活動がさらに可能になる、さらに様々な学習が出来るようになる、人数が増えることでより学習内容がひろがってくると、そういうふうなことがあります。

参加者3：厳しくなります。人数が多くなればなるほど、そんな中にいる個人個人はそれだけ注目されないとか、落ちこぼれていくとか、人数が多かったら良くなるんだということをただ口だけで言ってもしょうが無いですよと言っているんです。

参加者8：抽象的な話はもういいですよ。やめましょうよ、そんな抽象的は話よりもみんなの意見をしっかり聞いてください。まだ手が上がっているのだからそういう人に話をきいて答えてあげてください。

参加者9：今日の説明会の最初の質問でもあったように、来年度以降、みなさん教育委員会の方々が各地域を回って、統廃合の必要性について具体的に協議を行って行きますと。ただその結果保護者の理解が得られなかった場合は、大崎小学校で言えば令和11年度の統合ですが、統合予定となっておりますけど、それは必ずしもそうではありません。ということは最初言っていたと思うんですが、私としても保護者や地域の方々の理解がないまま統廃合は進まないんだと理解しておりまして、その点は安心しているんですが、ここで教育委員会の方にお聞きしたいのが、何を持って保護者地域の方と合意形成がとれたという判断を、どのような形があったら合意形成が出来て統廃合を進めていけると判断するのか、お聞きしたいと思います。

事務局：合意形成の判断の仕方ですが、明確な合意形成の判断基準というものはありません。学校再編というのは住民投票で決めるようなものでもないというふうにも思っています。これまで電話やメール、説明会などで多くのご意見をいただいて、その都度できる限り回答はさせていただいております。こうした取り組みを具体的な内容を持って各地域に赴いて説明を行って、学校再編の必要性について説明をおこなって、保護者の方の不安とか疑問の方を解消しながら、計画についての理解を深めていきたいと考えています。全員が全員納得するということは100%賛成ですということはたぶんないと思うんです。ただ、おおむね皆様方のご理解を得られたということが感じられましたらそういう形で進めていくということになろうかと思っています。

参加者 9：わかりました。ではその教育委員会の方々が、おおむね理解がしていただけたなということと、我々保護者側としては全然理解がされてないんですけどという食い違いがあった場合、そこもしっかりとお互い話し合って行けたらと思っておりまして、なので 11 年の統合とか準備委員会の設置というのはあくまで目安とおこう思います。準備委員会ですが、それが保護者側、地域側、教育委員会側で折り合いが付いて、じゃあ統廃合進めていきたいと思います次の年から 3 年間とっていいですか。

事務局：それについても協議して決めていくものだと思います。当然地域や保護者のみなさまのおおむねの了解、合意がとれていなかったら準備委員会そのものも立ち上げることは出来ないと思っていますので、まずはそこからと思っています。

参加者 10：前回の説明会も参加して、そのあとパブリックコメントしか募集しないということだったのにこの説明会を開いてくださったのでうれしく思います。私は統廃合に反対ではありません。今のままの学校ではだめだと思っています。地域説明会で保護者の意見を聞いてくださって、3 km から 2 km に変えてくださったので、ちゃんと保護者の意見を聞いてくれるなと思っています。今は反対の意見ばかりですけど、賛成の意見もたくさんあるので忘れないでください。思ったことは、玉小・玉原小・日比小・二日比小を統合するのが 1 年遅くなりましたが、準備委員会も遅くなるのはなんででしょうか。もっと早くから話しておけば、じっくりみんなで話し合えるのではないかと思います。あと、バス通学について、バス停とかどこに集まるとか、ちよこちよこ拾っていくのか、だいたいこっこで決めて集まるのか、どういった感じを考えておられるのでしょうか。教えてください。

事務局：準備委員会の立ち上げの時期についてですが、地域のおおむねの合意がとれたということであれば早めに準備委員会を立ち上げるということは可能かと思います。バスの乗り方、どこかに集まるのか、拾っていくのかについても、準備委員会でどのような形が子どもたちを安全に登校させることが出来るかという視点で皆様と協議して行きたいと思っています。

参加者 10：ありがとうございます。前向きに考えて行きたいです。

参加者 11：私も先ほどのかたのように、全部が全部反対ではないのですが、もう少し小さく小学校を合わせたらどうかという意見を聞いて、合併するかしないかというのではなく、間の方法がすごくいいなと思いました。合併しないにしても少しずつ。第二日比だったら人口 100 人くらいしかないんで、日比小学校に戻す、元々日比小だったから。とかだったら全然いいですけど、いきなり遠くへというのがすごいモヤッとなって、私の周りの保護者も、これはもう決定なんだよねと何も意見を言わなかったのですが、私は愛育委員をさせていただいて、自治会長さんに意見言わないともう OK したと言われるよと言われたので今回、二日比の P T A 会長さんと仲いいので、お話を自治会長さんとして、P T A の幹部にどういった意見があるか聞いて欲しいと頼んだら、そもそも知らなかった、元々 A 案 B 案 C 案いろいろある中で、いきなりこんなにまとめる、知らなかった、だったら私は B 案がいいなという話になって、それはもうまとめて意見書として出したんですが、それも全く説明がなかったし、今回このページにあるとおり、保護者や地域と具体的協議をみたいに書かれていて、うちの自治会長さんも今度説明会をお願いすると言っていたのですが、それって人脈があれば出来るのかなと思ったし、次新しい方だったら連携とれないのかなと思うし、私も初めて聞いたし、人脈があったから今日も来だし、保護者に話を聞いて欲しいというんだったら、時間設定がそもそもおかしい。めっちゃ忙しい、仕事もしてご飯もしなきゃいけない、子どもたちに夜お留守番させないといけないから、今日は義理の妹に連絡してほしいという状況なので、学校の話だったら学校で、参観日前とかにしてくれたらと思います。バス通学も 2 km や 3 km もありがたいんですけど、私の子どもは今徒歩で 10 分、下の子は 2 年生なんですけど、やっぱり日々しんどいと言っているし、たぶん 1 km もないですよ 10 分なんで。ちょっとの坂でもずーんとなったりとか、ランドセルだけで 1.1 kg から 1.3

kg、軽いやつでもそれくらいで、なおかつパソコンがあって、教科書は今置き勉でいいと言われているけど、算数国語は毎日持って帰る、ノートもある、ドリルもある、1 kgより全然重いんですよ、私のバックよりも全然重いんですよ。それを背負ってなおかつ子どもの歩幅に合わせて計算した 2 kmなのかなというのは思いました。けど確かに線引きをどこにするのかというのも、簡単に言えるわけではないしお金を出す訳でもないのに、でも私の親族でバス会社、両備とかとれるんですけど、いきなり用意してくださいと言われてもそもそも運転手さんもないので、どこも人手不足。だったら現実的ではないかと思いました。私も芳泉小学校で 1600 人の学級で育って、常に 40 人とかだったんですけど、それくらいの大人数で学ばせたいというんだったら、それくらい頑張ってるんですけど、20 人とかで、学ばせたいというから、それだったら今の人数 10 何人で先生が丁寧に見てくれる。学級が、私がマンモスで育った中ではそれがいいと思う。普通の子は見てもらえない。それは普通だから。逆に悪い人、不登校とか、暴れる子とかはそっちばかりみたい。すぐ成績がいい子、何かに秀でた子は見てくれるけど、本当に中間の子は放置。先生が二人いなくても全然いい。それだったら本当に 10 何人とか、二日比は 10 何人なんですけど、すごくいいなと思ったんで、できれば少しずつ、二日比と日比が合体するなら全然いいです。徐々にやったらいいなと思いました。

参加者 12：私は玉野の教育を考える会として、2 年ちょっと前からこの取り組みを見てきたのでよく知ってるので、今日初めて参加されるとか今まで知らなかったという方の声をお聞きしてやっぱりみなさんが知らないこの学校の問題は進んでいけないと思うんです。ですから、教育委員会の方はお忙しいとは思いますが、市民みんながこういうことを知るようにこれからもしていただきたいと思っております。それで、お忙しいとは思いますがちょっと、素案の説明会が 10/7 に八浜地区で初めてありましたよね。あのときの質問の答えを今見てるのですが、質問のお答えも言っていたと思いますが、ホームページを見ても、それ以降の質問には準備中になっていて答えられていないんですよ。それで、本当は素案の質問に答えてから修正案だと思うんです。今パブリックコメントを募集されていて、私の修正案について書かせてもらったのですが、そのパブリックコメントに対する対応はどうなるんでしょうか。いつ公表されてそのお返事はいただけるのでしょうか。本当なら修正案についての意見だからそれを受けて質問とかに答えてからの新たな案の決定だと思うんですが、3 月の中旬に案が決定ということは、パブリックコメントを行うとか質問に答えるとか、それよりも前に案を決定してしまうという、そういうことなんですか。知らない人が多い中で、案が、スタートラインといいながら決定されてしまうということをすごく不安に思います。まずパブリックコメントについては今後どうなるのか教えてください。

事務局：パブリックコメントについては 2/7 までの期間で実施させていただいております。そのあとこちらでいただいたご意見なんかを整理させていただいて、それぞれについてのご回答とか、こういうふうな形で修正しますとかがありましたら修正の方はさせていただいて、それを踏まえて最終的な計画とさせていただきます。

参加者 12：ということは公表は早い内にされるということですか。

事務局：パブコメの回答につきましてはまたホームページのほうに掲載させていただくんですが、そちらについては 3 月の上旬くらいには回答させていただけるかと思います。

参加者 12：ホームページで回答されるということですか。

事務局：そうですね。

参加者 12：付け足してなんですが、それは協議ではないですよ。パブリックコメントに対しての答えというだけで、それは協議ではないので、協議としてはまたこの案を発表した後、4 月以降に協議を始めると。

事務局：案がとれた状態、計画が策定された後に、地域の方や保護者の方とは協議をして、パブリックコメントは協議とかではありません。それはそれとして、ご意見としていただいて、それに対して教育委員会の考えをご回答

させていただきます。

参加者 12：それは 3 月中に。

事務局：3 月の上旬くらいにはホームページの方に掲載できると思います。

参加者 13：今こういう会に地域や保護者が参加してますけど、ダイレクトに子どもたちの声は教育委員会さんのほうは聞いたことはあるのですか。

事務局：計画そのものについて、賛成とか反対とかについては聞いたことはございませんが、子どもの統合後にどういったところが気になるか、どういったところが不安に思っているか、どういったところが楽しみか、そういったところもアンケートについては実施させていただきました。自由記述欄としていろんな意見をかけるような形でのアンケートというのは、小学校 3 年生から小学校 6 年生についてはさせていただいております。

参加者 13：それは最近ですか、各小学校でアンケートを実施したのですか。

事務局：はい、各小学校でアンケートを実施させていただきました。

参加者 13：それは子どもたちの意見が素直に書いてあると思うので、そのアンケートをよく熟読してもらって今後に反映させてもらいたいと思います。うちの子は今、玉小学校 6 年生で、玉中学校がこのまあいけば 3 年生の時に宇野中学校に行くことになるので、前倒しで宇野中学校にお世話になるのですが、やっぱりあと数ヶ月で卒業して入学となると、どうなのかなとクエスチョンマークがついてるんですけど、それに対して、「きっと玉野市の方がいいようにくださるから、それを信じて行こうね」としか言いようがなくて、具体的な言い方がないですね。親としてそれが辛いなという気持ちでした。だから本当ならそのへんを、アンケートでも具体的なことを子どもたちに説明しておいていただきたかったと思っています。この場で、統廃合で必ずこういうふうなことがいいよということを、絶対に統廃合したらいいことがあるということを言えるようなことを検討してもらいたいと約束してもらいたいんですけど。

事務局：児童生徒、子どもたちにとって学校が変わるというのは大きな問題です。子どもたちには、一緒になることで、友達がたくさん増えて学校生活がどういふようになるかということとこちらの方からも話しをしながら新しい学校についてのイメージ、安心して楽しみに通えるようにということと子どもたちに話をし、説明していきたいと思っています。

参加者 13：子どもたちに説明するのは各学校の校長が説明するのですか。

事務局：基本的には各学校で担任の方からということになりますが、具体的にはさらにこういう形で子どもたちに伝えるのが一番いいかということも、こちらのほうでしっかり検討していきたいと思っています。

参加者 14：前回の説明会の時に衝撃を受けたのは、通学区域中学校は 6 km ということと、地図を見たときに玉中学校までまあ距離があるところを宇野中までだと当然スクールバスに乗るのだと思っていたところ、エリアからもれていたということで、我が家では我が子が中学に行くときには宇野中ではなく荘内中に行く方が完全に近いですし、路線バスも通っているのもそれで考えていたところですが、今回これを見ると通学区域についての調整区域のところで漏れてるんだと、衝撃を受けております。最後のところに、保護者や地域と具体的な協議を進めるための話し合いをしていただけたとか意見を聞くとかということで、どこかで意見を言ってそのあたりのことを検討していただけるのかと思っているのですが、ずっと今日の話を聞いていると、どこで意見を言って聞いていただけたのかということが非常に不明瞭で、今日の会もたまたま広報たまのを見て知ったのですが、同じ玉原小の方々は知らなかったのも、たとえば学校の P T A 総会の場で来ていただいて説明をしていただくとかでないと、校長や教頭とかとよく話しをしますが、統廃合の件でたとえば校長や教頭に話しを聞いても、上から下りてくること以外、我々が知ることはない、と言われていたのも、校長や教頭からたとえば学校が変わることの説

明とか聞いたとしても、とうてい納得できる説明をいただけるとは思えないので、やはり興味関心があってもどこで意見を言っているのか、どこで話を聞けるのかっていうのがわからないので、それを確実に当事者である子どもたちや保護者や地域の方が聞けるような場の設定をしていただきたいと思います。

事務局：今日の説明会の方が周知されていないのは申し訳ないと思っております。ただ、保護者全員に配布の方は学校を通じてお願いをしております、通知がいついるかと思っておりますが、今後計画策定後につきましては、保護者対象、地域対象を分けてということになると思うんですけど、ご説明させていただく機会がありますので、またその時にご意見の方をお聞かせいただけたらと思っております。

参加者3：私も今しっかり役員をしておりますけども、文科省が以前に出した通達では学校の統廃合を通達する場合には、学校が持つ地域的意義の方を考えて十分に地域住民の理解・協力を得て行うように努めることと文言があります。私は今コミュニティの役員ですが、この問題で一度もご案内を直接受けたりしたことはない。だから先ほどの方がおっしゃったように、日比中学校区で言えば3年後に日比中が無くなるんですよね。これも正直なところ、地域から学校が無くなれば、それでなくても少子化が進む中で、これから子育てする若い方々はもう地域にほとんど来ないですよ。それなのに、コミュニティの役員さんなんか全然連絡を直接してない。素案の説明会8回ありましたよね。その時に、まずは保護者の方が質問してください。私らは保護者じゃありませんから、黙ってましたが、これは教育委員会だけの話しじゃ無いんですよ。町作りのためにどうするのが学校の問題。だから、少なくともコミュニティの方にもきちっとお話しして、理解と協力を十分に得なさいとなっているんです。全く見てないですよ。自治会長にも地域の役員さんにも賛否があるでしょう。議論を深めて合意形成を高めるということをやったらまったくナンセンスなんですよ。教育委員会はまとめて束ねた方が経費も安く済む、小学校1学年が2クラス以上あった場合といっても、新たな修正案を調べたら32〜33人の小学校なんですよ。だったらむしろ20人前後が子どもたちにとっては切磋琢磨もそれで十分できるし自分たちの学校だから役割を持ち主体性も高まるんですよ。だから30人になるとか、今回の中学校なんかは500人規模になるんですよね。玉中・日比中なくして宇野中に行く。どうらいことになりますよ。そのことをまず地域の方々に聞いてないですよ。それをそのまま計画策定なんかこの3月に決定するなんかまるっきり合意の無い流れ。PTAの方々にも浸透してないですよ。こんな重要な町が変わるような計画をね、このままでは3月に決定するんでしょう。議会の場だっていろいろな議論今まで出てますよね。もう一年計画案を延ばしても、素案でもいいからみんなでもっともって議論をした上で、だったらやむを得ないだろうと言う中で進めなかったら町はこんなでできませんよ。行政は教育委員会との信頼関係もうまく行きませんよ。やっぱり縮小は仕方ないですよ。子どもが減ってる、人口も減ってる、だから賢い縮小をやりたいと言っているんです。だからPTAなんか私の意見を聞くと、日比小と第二日比小、玉原小と玉小くらいならまだしもという意見もたくさんあるんですよ。そういうところが議論できていない。だから令和4年の時に発表した最初の学校適正規模化計画の草案、これにはA B C D Eまで出てたんですよ。それをほぼDに近い大合併を教育委員会さん、それから検討委員会のみなさんで。だから検討委員会の大学の先生の、本来は複式学級解消のために出発したんだけどしゃべってたけど、もう大合併ですよ。500人規模といったら、調べたけど、岡山倉敷は外して津山から13市ありますけど、70何校かあるんですけど、半分近くが1学年1クラスです。500人規模の学校は5校しかないですよ。そんな大きな中学校をここで一気に作って、どうなんかない問題もあるでしょう。だからもうちょっと議論をして、反対する方ももちろんおられますから、みんなが納得する、地域のコミュニティも納得する、一緒に議論をするような合意形成を高める必要があると思います。賛成の方ももちろんおられるんですけど、そういう意味で3月に議会が承認したからと言って合意したらだめですよ、絶対。玉野市は大

変なことになりますよ。だからやっぱり 1 年計画は延ばしてもっともってみんなで議論をして、地域の方も保護者の方も、これならいいんじゃないかなというくらいの、全部はもちろん賛成できませんけど、7 割 8 割の方がご納得いただいたというところでやるのが、本当に民主的な住民参加の学校作りで町作りでしょう。文科省はそれを心配して言ってるんですよ。地域住民のみなさんの意見を理解をしっかりとください。かなり批判的な意見も出てますからね。そこをきちっとしていただきたいと思うんで、これは計画を無理矢理決定するということは見切り発車ですよ。理解と協力なんか、何年も役員されてきた方が何もわかっていない。私も前回の説明会に来たときに、うちの日比中学校区のコミュニティの中で来てたのは向日比の役員さん来てました。私と二人だけですよ。これはぜひ市長、教育長とも話をして、みんなでもう少し論議をして議論を深めながら賢い縮小にしてください。合併が絶対だめだという立場じゃないですよ。だけどこのやり方は、500 人の中学校を作る、どうするんですか、県下岡山倉敷を除いたら五つしかないんですよ。しかし八浜のみなさんは、なんでうちが荘内なんだという声が、反対の声がどんどん上がってるんだから、4～5 年延ばすわけでしょ。他の地区でもまだまだいろんな意見があるんだからぜひそこは。私はこの計画教育委員会のペースでやったらえらいことになると思っております。町に大きい影響を受ける物ですから、慎重に進めてもらえたらと思います。

市長：ご意見ありがとうございます。今言われたように、この計画の策定、熟度はどうかということはあると思います。どこかでこの計画を決めて進めていくと、いうことをして行かないと次々と問題が先送りということになって前に進まないということになります。当初のスケジュールでたてていた本年度中に計画を立てると、いうことで今教育委員会が進めているということでもあります。ただ実際にこういう説明会をしてもなかなかみなさんには届いていないということはあると思います。それはいろいろ不備があったのかもしれませんが。ただそうは言いながら、じゃあいつまでこれをやるんだみたいなことになるわけですよ。来年同じようにやったとしてもやっぱりまだ届いていない。さらにやっても、やっぱりまだ足りないとなるかもしれない。ですからどこかできちっと区切りをつけてそこをスタートラインにして進めていこうというのが今回あえてあいう形で書いてますけども、まずはいったん決めて、これでやるんだということで市としても教育委員会としても示して、そこをベースに進めていこうということでやると私は理解しておりまして、当然それには政治的なリスクもあるかもしれませんが、それを言っていたらいつまでたっても出来ないと私も思いますので、ここは皆様方のご理解、ご意見をこれで終わりじゃ無くて聞かせてもらえればいいと思います。それで前へ進めていくということで、もしかしたら最終形はまた変わってくるかもしれませんが、いずれにしても皆様方のご意見をしっかりと取り入れながらやっていきたいというスタンスは提示していければと、

参加者 3：市長、一般の市民の方もほとんど知らない方がおられる。去年の 6 月に計画の素案が出たんですよ。8 回しかやっていない、中学校区で。それで熟度は出来ないでしょう。小学校区ごとにするとかね、P T A だけで議論してもらおうとか、もう半年か 1 年近くかかるでしょう。それが本来の住民参加でしょう。6 月に出て 8 回しかやってないなんて、それでもう計画策定に持ち込むというのは完全に見切り発車ですよ。そこをあえて市長が言うなら、その学校再編の進め方の中に、協議を行いながら十分理解と協力を得ることで計画を進めていくが変更もありうるという一文をいれないと。約束してくれるならスタートラインもわかる。中学校は 3 年後に潰すんですよ。そしたらすぐ協議会を開くんですよ。一気にその方向で行こうと思っても、いや、もうちょっとこういうこともあるんですけど、中学校としてはたとえば日比中に統合する方法もあるでしょうとかね。そういうことの余地を文章に書かないのだったら、市長なり教育長が約束しないといけない。今までもそれに近い意見出たじゃないですか。話が出た時に変更があるんだったらそういうことも含めて、理解と協力が得られるような計画の進め方をしないといけません。口頭でもいいからここで約束してくれないといけない。普通こういう合併の話は 2 年 3 年論議しますよ。玉野市は教育委員会では 2 年 3 年論議してきたのでしょう。A 案 B 案がでた草案では

令和 4 年ですからね。それがみんなに知らされて、玉野市はこんな合併をしたいんだと示されたのは 6 月ですからね。1 年経ってないんですよ。普通ならさらにそれもさらに 1 年以内にやれるならいいですよ。PTA ごとに論議もすればいいし地域でもコミュニティの役員集めて説明して、私らも疑問持ってるんですよ。たとえば学童保育の子どもたちはどうするんだろうか。それから日比小学校が避難所になりますよね。廃校にしても避難所としては機能しないといけない。説明会 1 回も無いですよ、地域のコミュニティに対しては。本当なら避難所まで変えようという計画だったらその避難所の対象の地域も含めて全体で論議しないといけない。それで今言うように中学校まで何kmもかかっていて、途中で中学生なら寄り道しますよ。交通事故のリスクなんかはるかに高まるでしょう。いろいろな問題があるのに、3 月議会で計画策定というなら、私が言ったことをみなさんにきちってってください。十分な理解と協力が得られないならば計画は推し進めませんと言ってくれなと。

市長：おっしゃるとおり、みなさんの理解、協力が得られないとこの計画は進めるつもりはないと、これは前から言っていることでありまして、

参加者 3：変更もありうるんですよ。

市長：変更というのは先言ってしまうと、そこはやはり計画自体の意味のなくなってしまうので、基本的に計画も決まれば進めていくということであるんですが、そこはみなさんの理解を得た上で、

参加者 3：見切り発車すぎ。1 年も経たないうちに計画策定というのはありません。2〜3 年、少なくとももう 1 年近く先、この素案を計画策定としてみなさんの理解を得られたのであれば、民主的なやりかたですよ。10 何人かしかいない学校が最近廃校したとかね、全校がそうですよ。それがいいとは言いません。この計画をたくて無理に推し進めるようになるから。文科省は通達出してますから。無理な統廃合をすることは良くないと。そういうことも含めてやらないと。6 月に発表して 1 年も経たずに計画を決めましたか。中学校は 3 年以内につぶしますでしょ。そんなむちゃくちゃ。

参加者 15：一つだけ、今日初めて計画を聞いたんだけど、やっぱり教育委員会は進めようとしていることを押しつけてるだけのように感じます。どうか小中一貫校を考える検討を今一度してもらえますか。今日ここへそういうやつパンフレットを 100 部用意してます。いられる方は持って帰ってください。こういう考え方もあるんだというのを。やはり幅広く論議しないと、前に進まないような気がします。市長さんも大変ですけどよろしくおねがいします。

参加者 16：今回市議会便りを見させていただきました。教育次長の言葉で、藤原さんの質問に対して、「スケジュール変更については早期の計画遂行をとの声や計画素案を見て子どもの指定校変更するという動きがある中で、計画策定の延長や中止は影響はかなり多いと思われる。なので、計画策定に向けて進めていきたい」というふうにありました。これは今私たちが言っている、求めている答えではないと思うんですよ。私たちは市民の声、その学校に通っている児童のことを考えてその子たちの意見を聞きながら進めて欲しいというふうに思っておりますが、教育次長はスケジュールにのっとって進めていくというふうに明記されています。これは地域の声を無視したものではないかと思います。おおむねの合意を受けましたらこちらを進めていきたいと思うと言われているんですが、そのおおむねという数を、10 人の中で 8 人が合意したら、あと二人は合意が出来なかった、じゃあこの二人に対しては説明して統合していきたいと思うけどどうしたらいいですかって聞くと、100 人の中の 7〜8 割の方、20〜30 人が反対している中で、おおむね合意を受けましたので進めていきたいというのは、そのおおむねっていうのを、その学校、その地域のなかで変わってきます。それが関係の無い人も含めてのおおむねに当たってしまうと違うと思いますので、その当該者、学校に通ってる児童、保護者の方の人数で考えて欲しいですし、その中で合意を受けなかったとしても地域の方と連携をして、学校に通いたいという児童がいるのであればそれを残せるような工夫をしていって欲しいと思いますし、逆に大規模な学校に通いたいという子もいるかと思っています。

それが合うんだという人もいます。それはそれで意見を尊重しながら、じゃあ指定校を変えるっていうふうなことで、義務教育なのでそこは教育の方々が支援してその子たちに負担が無いように大規模校に行きたいなら大規模校の、小規模校に行きたいなら小規模校の、義務教育をしているんですから、そのへんの責任はしっかりとっていただきたいと思います。

参加者 2：八浜のことが議員の方からでたので少し発言させていただきたいと思います。我々は 11/21 に大崎小学校と八浜小学校の統廃合中止と、八浜中学校と荘内中学校の統廃合中止、そして我々保護者や地域から統廃合を望む声が出たときにその際に検討してくださいという陳情内容の陳情書を提出しました。その甲斐あって我々はこの修正案が出たときに P43、第 5 章§9 の学校再編の進め方の後に⑥が追加された。そこに書かれてあるのが、抜粋しますが、保護者や地域と具体的な協議を進めるためのスタートライン、対象地域、学校、保護者、と協議を行いながら計画を進めていきますという一文が付け加えられたときにそれを見て安心しました。協議という言葉は法令とかで使われる際に、相手方に納得が得るまで十分に説明するということが含まれているので、保護者や地域の方と合意、納得して合意しなければ統廃合しないんですということを教育委員会は明記してくれたんだというふうに理解しています。先ほど日比の方もおっしゃったように、確かに⑥が追加されたことでそれにピンと来る人って八浜地域にほとんどいなくて、年末から年明けにかけて周りの人に、「結局 1 年しか延びなかったね、八浜中も 4 年、5 年しか延びなかったね」と言われるたびに説明していったんですけど、うちがあかないので、会長 5 人の連名で回覧を作って大崎地区と八浜地区に回覧を回しました。まずは大崎小学校と八浜中学校の存続が決定しましたというタイトルで、先ほどの協議の内容などを詳しく書いて回覧をさせていただきました。去年の 6 月に素案が出てからも、10/7 に八浜で説明会が行われて以降、説明不足というのを感じたので P T A の会長のみなさんと父母会の会長の方々と話をして独自で計 6 回説明会をしている。市議会議員の方にもきていただいたり、市長にも来ていただいたりしました。そこまでして P T A で舵をとれる方がいないんじゃないかと僕は思っています。ということはやはり周知は全然足りてなくて、僕自身はこの計画自体を発信したいとか全く思ってなくて、全ての説明会に赴いて話を聞くと、日比地区でしてほしいという保護者の方もいれば、玉地区でしてほしいという方も。それは半々かもしれないし、どちらかという和多いかもしれないですよ。だから地域によって、この修正案というのは一気に全部やるんじゃなくて、これから各地区に赴いて説明して納得して理解していくところから進めますよという修正案だと理解している。教育委員会の方たちもすごく考えて計画なんかを策定してくださってると思うんですけど、全体で言うともう少し時間をかけるべきかなと思ってます。